

1. 評価結果概要表

作成日平成 20年 9月 23日

【評価実施概要】

事業所番号	4272300247
法人名	有限会社 カワトタイル
事業所名	グループホーム よこせ
所在地	〒851-3509 長崎県西海市西海町横瀬郷2762番地2 (電話)0959-32-2612

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年9月20日	評価確定日	平成20年10月3日

【情報提供票より】(平成 20 年 9 月 3 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17 年 10 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 3 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 6.8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造スレート 造り
	1 階建ての 1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	250 円
	夕食	350 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 800 円			

(4) 利用者の概要(平成 20年 9 月 3 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83.3 歳	最低	65 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	真珠園療養所・たいら医院・小武医院
---------	-------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

遠くには海が見え、緑に囲まれた豊かな自然環境の中にホームがある。経営者は「地元への還元」として当ホームを建てられている。理念は「利用者様の人格、人権を尊重し「共に助け合い共に生きる出逢えたことの喜びとこれからの一生を大切に」をモットーに地域に開かれたホームを目指し、利用者様が楽しく生活できるよう努力します。」の理念をホーム各所で掲げられている。前管理者が退職され平成20年7月から現在の管理者が引き継がれている。そのため、管理者は、日常的に忙しい中で入居者と職員への細かな気配りと、経営者との連携を良く取られている。管理者が「このホームに入居して元気になった」との入居者・家族の声が多く聞かれるのが一番の自慢です、と話されたことが印象深いホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善計画シートを作成され改善目標を掲げられている。改善項目「運営推進会議開催」までに至らなかったが、今年中に立ち上げる予定である。家族会は代表者を決定し、改めて発足させた。項目 職員の研修は積極的に取り組まれている。終末期や重度化への対応として家族会を持ち、文書化する方針を明言された。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の意義は職員全体に浸透しており、前回の外部評価後改善計画シートを作成し、取り組まれている。自己評価は職員全員で取り組まれ、分かる範囲で記入する過程で介護の振り返りをされている。家族会や独自の運営推進会議の中で、外部・自己評価を公表し意見を取り入れる方針を持たれている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>西海市12のグループホームで認知症ケア研究会があり、6グループホームで合同の運営推進会議が開催されており、事業所独自の運営推進会議はできていない。家族会開催後、運営推進会議をできるだけ早く立ち上げる意向を示され、市との連携もよく取られており、問題解決がスムーズに行われている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の面会は週1回程度あり、意見箱の設置と意見書を置いてあるが、投函は少ない。殆どの家族と、直接、職員や管理者が話をする時間を設けて家族のストレスを溜め込まないようにケアをされている。また、年2回家族会を開催していたが、代表者を決め、8月31日に改めて発足した。運営への要望や意見を出しやすい会議にしていきたいと考えている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>当ホーム設立当初から、地区の自治会へ加入を希望されていた。平成20年4月に念願の自治会への加入ができ、地域行事、学校行事、清掃作業への参加など積極的に取り組まれている。地区の回覧板を入居者にも見てもらい、行事参加を楽しみにされている。小学校の体験学習や高校・大学の職場体験の受け入れもされている。日常的に下校時に「トイレを貸して」と言ってくる小学生の子供たちを快く受け入れ、入居者が笑顔で見守りをされており地域との交流ができています。</p>

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当時の理念を、平成18年に地域密着型サービスとして見直しをされている。経営者が「地域への還元」を実現するために設立され、地域との交流と入居者が穏やかに明るく過ごされることを目指した独自の理念を持たれている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に、全職員で理念の唱和をされ理念の共有をされている。職員は各自理念を念頭に置いて、笑顔と明るさを一番大切に思いながら日々の介護に当たられている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	当ホーム設立当初から、地区の自治会への加入を希望されていた。平成20年4月に念願の自治会へ加入され、地域行事、学校行事などに呼ばれるようになり、地区回覧板を入居者に見てもらい行事参加を楽しみにされている。下校時に「トイレを貸して」と言って来る小学生の子供たちを気軽に受け入れ、入居者は笑顔で見守られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義は職員全体に浸透しており、前回の外部評価後、改善計画シートを作成し取り組まれている。自己評価は職員全体で取り組まれ、分かる範囲で記入する過程で、介護の振り返りをされている。家族会や独自の運営推進会議の中で、外部・自己評価の結果を公表し意見を取り入れる方針を持たれている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者は、H20年度から新たな体制の家族会を発足し、事業所独自の運営推進会議を立ち上げると明言された。自治会長や民生委員、家族や入居者の意見を取り入れて介護の質の向上を目指されている。		

グループホーム よこせ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	西海市地域包括支援センターや市の担当者が相談に対応されて問題解決ができています。運営推進会議が立ち上げられ、会議への参加を表明されており、相互の(報告・連絡・相談の)連携はできています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回、請求書と「よこせ便り」を家族へ送付されており、その時に個人記録の抜粋や写真を同封されている。遠方の家族にも便りを送付し、電話連絡や電話で本人が話しができるような配慮がされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会は週1回程度あり、意見箱の設置と意見書を置いてあるが、投函は少ない。殆どの家族と、直接、職員や管理者が話をする時間を設けて家族のストレスを溜め込まないようにケアをされている。また、年2回家族会を開催していたが、代表者を決め、8月31日に改めて発足した。運営への要望や意見を出しやすい会議にしていきたいと考えている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	経営者は、職員が働きやすい環境作りを積極的に行われている。職員の意見や提案などもスムーズにできており、離職の歯止めとなっている。新規に採用された職員は、段階的に馴染んでいくような入り方で入居者へのダメージを最小限にとどめる工夫がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	交流が多い他のホームの職員と相互のホームを見学するなど活発な交流を実践されている。県内の研修にはなるべく参加できるように、出勤扱いや交通費の支給など経営者側から職員への配慮が窺われる。資格の取得にも積極的な取り組みがされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回第2水曜日に、西海市の12事業所が集まり認知症ケア研究会へ出席できる職員は参加して交流をされている。市の担当者も必ず参加され、対応困難事例などを他の事業所から発表され、検討会や市の担当者が相談に乗るなど交流を活かしたサービスの質の向上に努められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望時から、家族や本人との面接を重ね、馴染みの関係作りに努力されている。本人が家族と共に見学や利用者との交流を重ねて入居されることが望ましいが、病院から退院と同時に入居される方もいる。不安感の解消や本人の納得の確保を優先と考えて実践されている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>近隣から入居されている方が多く、地域のしきたりや郷土料理の作り方を職員が学ぶことが多い。「自分の子供のように叱ってくれることが嬉しい」との職員の声が印象的で、共に暮らす者同士として、職員と入居者は互いに支えあう関係を築かれている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの人生歴の作成を徐徐に進められている。家族の協力と、会話の断片などから本人本意の思いや意向の把握に努められている。又、支援する側される側にとらわれない思いやりや職員をいたわっている場面が日常的に見受けられる。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月1回のケアカンファレンスでは、日々の気付きが目標達成につながるような介護計画となるように日々の記録様式を変更される予定にされている。1対1で話しを聞くゆとりを持つことで本人本意の暮らし方ができる介護計画の作成を心掛けている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の状況に合わせて随時見直しやケアプランの変更が実践されている。毎日の介護記録にケアプラン変更の足がかりとなる職員の気付きから計画の変更を柔軟に実践されている。</p>		

グループホーム よこせ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 of 要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診時の移送サービスや職員の同行は柔軟な対応をされている。家族や本人が望む特別な外出にも対応されており、墓参りやホームの近くにある知人宅への外出支援などされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	自宅生活からの「かかりつけ医」を持たれている入居者が多く、職員が同行受診をされている。遠くの病院への受診は家族と本人が行かれるが、家族からの説明以外にも、必要時には主治医へ電話で不明な点を確認されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化に向けた話し合いは、家族や本人に言えないため「看取りの指針」は作成されていない。入居者の高齢化に伴い、医療との連携は不可欠であることを管理者は理解を示され、重度化に向けた対応を考えられている。	○	重度化や終末期が段階的に訪れたり、急変した場合の対応を検討されているが、職員間の統一した対応と文書化で「看取りの指針」を作られることを期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の気持ちを傷つけない言葉かけ、丁寧すぎると親しみが持てない方への対応など、ミーティング時に意識合わせをされている。しかし、入居者を見守りながら記録をされる際等の記録物の取り扱い方法についての工夫がなされていない。	○	入居者が周囲にいる時に記録をされているが、短時間でもその場から離れる時に入居者から見られないようにする事はプライバシーの確保、個人情報の漏洩防止の観点から必要である。記録物の取り扱い方法についてなどの徹底と工夫をされる事を期待したい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各入居者のペースに合わせた一日の過ごし方を大事にされている。食事の時間や入浴、外出、就寝時間など自宅での習慣の延長線として支援をされている。		

グループホーム よこせ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや、盛り付け、片付けや洗い物など、生活の延長線としてできることを無理強いではなく、自然の流れとして職員と共に行われている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴を苦痛に感じる入居者が多いため、隔日にされている。拒否がある場合は翌日にする、希望の時間に合わせて入ってもらうなど、入居者本位の支援をされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴から見出した役割や楽しみごとを、現時点の入居者の楽しみごとに繋がるか、無理強いをしていないかを日々観察されている。それを踏まえて「魚の下ごしらえ、季節に合わせた伝統料理を教えてもらう、畑仕事の指導」など本人の意向に沿う支援をされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の生活歴に応じた外出支援として個別対応をされている。ホームの前に作られた畑に毎日出かけたり、買い物に行く時希望者を連れて行き、ホーム周囲の散歩など日常的な外出支援をされている。現在、リビングから直接外に出られるようウッドデッキが建設中である。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関は施錠されていない。ドアベルを取り付け、帰宅願望や外出傾向の強い入居者の外出は止めず、職員が後ろから付いて行き、声を掛けるタイミングを見極めて声かけし、本人がホームへ自主的に帰る支援をされている。また、地域住民の協力、交番への情報提供などもされている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は近隣住民や消防団の協力も得て行われている。自然災害については、備蓄や地域との協力体制、ホームが避難場所となり得るなども含め、地域との連携や災害を想定した対処の仕方を検討する意向を示されている。		

グループホーム よこせ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の職員が献立を担当されている。糖尿病でインシュリン療法の入居者がおられるが、管理された食事で体調管理ができています。また、個人別に刻んだりほぐすなど誤嚥予防をされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は採光の工夫で明るく、日差しはカーテンで調整されている。廊下やリビングは入居者の作品などで季節が感じられる。台所は広々としており、利用者も一緒に作業しやすいように工夫されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた品の持ち込みは少ないが、写真やカレンダー、衣類入れの違いなど個性が見受けられる。帰宅願望のある方の部屋は、本人と家族が希望をあわせて最小限の物を置かれて落ち着く居室作りをされている。仏壇を持ち込まれている方もおられ、それぞれの生活空間が垣間見えた。		